

委員さんの発言、質問に対する回答等は、主旨を替えずに要約してあります。

平成 25 年度 第 2 回中野市行政改革推進委員会 会議録

日時 平成 25 年 10 月 15 日 (火)

午後 2 時から午後 3 時 20 分

場所 本庁舎 31・32 号会議室

<出席者【委員】>

涌井純生委員、阿部松枝委員、二茅一徳委員、今井多恵子委員、北村忠彦委員、岡村郁子委員、原田孝男委員、小林日出夫委員、北原新一委員、中村幹夫委員、高山康代委員 【計 11 名】

<欠席者【委員】>

東英司委員、渡辺茂子委員 【計 2 名】

<出席者【市】>

池田市長、横田副市長、小嶋教育長、田中総務部長、渡辺健康福祉部長、塚田子ども部長、竹内くらしと文化部長、小林経済部長、小林建設水道部長、上野消防部長、外谷豊田支所長、岩戸会計管理者、小林教育次長、大堀議会事務局長、原政策情報課長、小橋行政管理係長、小林主査、山本主査 【計 18 名】

1 開 会 (副会長)

2 あいさつ

【議長】

前回の委員会で市から「中野市公共施設管理運営方針案」について説明をいただいたところであり、その後、それぞれの委員から資料等の要望があった。

資料については、事前に配布されていますので、その追加資料も含めて事務局から説明をいただき、その後、活発にご審議をお願いしたい。

3 報告事項

【政策情報課長】

(資料 1～資料 5 の説明。)

9 月 5 日から 26 日までパブリックコメントを実施しましたが、ご意見等はありませんでした。

【議長】

委員さんから参考資料の提供があるようですが、委員さん要約してご説明をお願いします。

【委員】

前回お配りいただいた公共施設白書は、厚くて全部見るのが困難である。また、施設の利用者からすれば、集約化、廃止等は各論として反対ということになってしまうので、もっと客観的にわかりやすく分類してはどうかということで作成した。

公共的・必需的に分類されているものは地方自治体で必要不可欠なもの、市庁舎とか、小中学校等、しかしこのまま存続で良いのかというと合併により同様施設が点在し、コストがかかっている事から、集約化又は ICT 活用による無人化等の方向が考えられる。

公共的・選択的の分類は、公共性はあるが、デイサービス等、適切な住民サービスほどの程度なのかを考えて選択できるのではないかというもの、必需的・民間的は必要性はあるが民間でも受け皿のあるもの、選択的・民間的というのは、設備の統合化、複合化も検討できる施設となる。また、民間譲渡を検討して受け皿がなければ廃止を検討していく必要がある

施設の分類によって、市の負担が多くていいもの、受益者負担をある程度上げていく施設に分類できる。市の負担を出来るだけ少なくする必要があるのではないか。

これは私案であるが、こういった分類方法によって改善を図っていくことも考えられるということです。

4 協議事項

(1) 「中野市公共施設管理運営方針」(案)について

【議長】

事務局及び委員さんの資料の説明がありましたが、ご質問、ご意見をお願いします。

【委員】

前回の委員会でも市民会館や市庁舎について発言したが、すでに信毎やローカル等で、公共拠点施設の検討会での方針について報道された。

今日の行政改革推進委員会の審議は、市庁舎と市民会館についても対象となっているわけで、市庁舎等の方針案が出た後でこの会議を開催することはいかがなものか。

本日の会議の審議結果を待つて市の方向を発表すべきで、つまり、この会議は一応市民の声は聞きましたという言い訳のためのように感じる。

【市】

今回の公共施設の管理運営方針案の中では、別途組織で審議するものがあり、公共拠点施設についても別組織で検討していく方針を示しました。

公共拠点施設の整備については、市としての案を出したもので、今月中に市民説明会、パブリックコメント等を実施して12月頃に市の方針を決定したいと思っています。

【委員】

資料3の財政シミュレーションは、市民会館と市庁舎の建設費用は入っているのか。

【市】

シミュレーションには入っております。市庁舎と市民会館はこれから具体的な検討に入

り、詳細な中身は検討してありませんが、平成 20 年ごろに検討した費用、市庁舎は 26.8 億円、市民会館は 23 億円という金額を今回の財政シミュレーションに入れております。

【委員】

市長さんにお聞きしたいが、私は市庁舎、市民会館の建設に反対ではありません。

しかし、両施設を建設しても、将来にわたって福祉とか教育とか、こういった施策は絶対後退しないんだということをお約束できますでしょうか。

【市長】

当然ながら、将来の福祉、教育に関しては後退さないということを前提としています。考え方もいろいろありますが、公共施設もたくさんあり、経営という観点から本当に必要なもの、中身をより高度化するもの等相対的に考えております。

市民会館、市庁舎につきましても本当に考えました。今回と別の会議で審議させていただきましたが、将来にわたって今、建替えるべきなのか、将来の人口減少していく中で建替えられる時期があるのか等、当然考えて対応したものです。

私の責任は、市民の皆さんがこれまで以上に暮らしやすい環境をつくるということが前提であり、それは施設のハードだけではなく、教育、福祉施策についても言えることで、ここでお約束いたします。

【委員】

要望です、人口が減っていくというのは、ゆゆしき問題だと思うんです、年金等あらゆるところに影響が出てくる。今回の会議の主旨もそこからきていると思っていますので、市庁舎も右肩上がりの時代の考えではなくて、本当に必要最低限で作っていただきたい。

私の私見ですが、議会の議場も立派なものが必要なのか、私はこのぐらいの会議場が 2 つあればいいと思います、削れるものは削り、市民が利用する市民スペースや必要なものには有益な施設を作っていただきたい。

市民会館についても、単なる発表の場ではなく、体育施設も兼ねた多機能な、1 年中使えるようなものを作ったほうが無駄がないのではないかと。年間の稼働率が上がるような、無駄なハコモノにならないように作っていただくようお願いいたします。

【議長】

要望として承っておきたい。

【委員】

財政シミュレーションも示していただいたが、市庁舎と市民会館は何年後に建替えなのか、スケジュールをお示しいただきたい。

【市】

市庁舎については、平成 29 年度に供用開始、市民会館については、平成 32 年度に供用開始を目指しています。

【委員】

世界の人口ではインドが増えて、日本は1億を割ってしまうほど減る中で、長野県の市町村の中でも人口が増えている所もある。これからは施設よりも住みやすい環境を作ってほしいと思います。委員さんの資料は大変すばらしいもので、施設の複合化ができるものはしていただき、アットホームで1日、365日居たいというような行政サービスができる施設をお願いしたい。今後は、環境とかそういうところにお金をかけて、将来の子供たちが中野市に住んでよかったなと思うような施設にはお金をかけてほしい。また、広域で一緒にできるもの、例えば先日、野沢温泉、木島、飯山一体でマラソン大会が行われた、中野でもふるさとマラソンをやっているが、一緒にできるような形を取れば良いと思う、今後の施設の運営についても広域化も考えてほしい。

【委員】

財政シミュレーションについて、例えば、借金の返済、実質公債比率ですが、ほぼ横ばいで公表されている、中野市は2011年10.3%、県内で30位だった。上には塩尻が28位、小諸、飯田、須坂、諏訪、佐久、下条村は断トツで1位です、中野市の数字は、早期健全化比率25%、財政再生基準35%と比較すると数字がよいように勘違いされるが、全国では1739位中659位で、真ん中よりちょっと上。単に数字だけでなく、どこを目標とするのか、須坂とか諏訪、佐久とか、シミュレーションしたのだから、数字が横ばいだから良いではなく、目指す数字があれば良いと思う。財政力指数も全国的には中野市は悪い状態。そういう点から、公共施設はどの程度思い切って見直すという発想になると思う。

【議長】

これも貴重な意見として承ります。

【委員】

私は住民票が中野市ではないのですが、委員さんが提出された資料は非常にわかりやすい、俯瞰できる資料だと思います。私も同じ資料を希望したが、やはり市の施設であるので市の政策、民間企業でいえば戦略に従ったあり方、今後の市の方向に従った施設の見直しということを俯瞰しなければならぬと思う。この資料に政策という軸を加えたうえで統合、改善整備を進めてもらえれば良いと思う。

参考であるが、中野市の図書館に行ったが、非常に落ち着いた雰囲気を使いやすいと思ったが不満もある。塩尻市の図書館は、街のど真ん中に図書館をつくるという方針で、今更街の真ん中にと大反対されたが4階建ての図書館をつくり、館長も全国から募集し、市の一番の人気スポットになった。松本山雅の応援シャトルバスの発着場にもなったり、土日営業していることから、戸籍等の証明書も取れる。

あくまでも1つの例であるが、政策として何をとりか、教育の街、スポーツ振興したいとかの方針で、施設をどうするかということ考えた結果だと思う。

施設1つ1つの存廃を検討するのも大切であるが、全体としてどちらの方向に何を導いていくのか、という検討も大切ではないかと思う。

【委員】

白書では、小中学校の耐震化工事が必要とあるが、小中学校の耐震化状況を教えてほしい。

給食センターについて、それぞれ児童数が減ってきているが、豊田給食センターはぜひ存続してほしい。豊井小学校の児童と協力しながら地域の食材を提供しており、地産地消など別の効果もある。

【市】

小中学校の耐震化については、中野市の場合すべて終了しております。

まだ残っている部分は、体育館の天井とかの崩落の危険性による撤去工事等、構造そのものでない、非構造部分は残っておりそのことが記載されています。

給食センターの関係については、今後検討していくということでございますので、ご意見として承っておきます。

【委員】

豊田地区に来られる先生が、豊田の給食がおいしいと言われる、同じ食材を使いながらおいしいということは、水が良いからではないかと思う。

北部給食センターの土地は借地となっているが、市で買い上げる予定がないのか。

【市】

今のところ土地を買い上げる予定はありません。現行の借地のままで今後ともよく考えます。

【委員】

要望ですが、利用者の減という理由で集約施設の中に4つのデイサービスセンターが入っている、今後高齢化社会でデイサービスセンターは必要性が出てくる、利用が減っているには何か理由があると思う。民間施設の方が便利だからか、利用が必要な方が本当に利用しているのか、この部分は数字では見えてこない。2025年頃から、団塊の世代が75歳以上になり利用者は増える、その中でデイサービスセンターを集約ということになりますと、利用したくても利用できなくなるという心配をしている。この集約化については慎重に利用者等とよく協議して検討してほしい。利用が少ないから集約化ではなく、なにかもっと違った形で利用者減の分析をした中で検討が必要ではないか、という要望です。

【委員】

私は市の職員労働組合の代表ですが、今回の見直しの中で自分が担当する仕事のデイサービスもあるので、述べさせていただくと、社会情勢の変化や、国の政策、方針変更があって法律が変わり、それが市の方へ降りてくる。人口のバランスや、市民のニーズも踏まえての検討が大切である。団塊世代の高齢化で人数も増えるが、それ以後は、年数が経過すれば、全体の人口は減少していくことも考慮していかないといけないので、今のうちに公共施設の管理運営を検討していかなければならないと思う。

高齢化社会というと、高齢者が悪者のように暗い気持ちになってしまうが、市長が福祉や教育の後退をしないという話であります、お年寄りの方が長生きしてよかったなと思ってもらえるような施策、子どもたちにとっては生まれてきてよかったなという施策の推進をしていただき、自分自身も職員でありますので努めていきたいと思っています。

【委員】

前回、デイサービスセンターが集約化施設に入っており本当にびっくりした。先ほどデイサービスセンターについて意見を述べられた委員さんと同じ気持ちです。

農産物加工施設については、豊田のような良い施設ができて、帯の瀬のように古く利用が少なくなった施設もあるが、委員として全部の施設の利用状況とかわからない部分がたくさんある前提で、施設の存廃を検討するのは難しい。そこは市の職員が専門でやってくださるので、ある程度はお任せできると思うが、やはり経済や人口減少だけではなく、血の通ったものに一つづつしていただけたら、ありがたいと思います。

【委員】

要望です、資料をたくさん出して、説明をしていただくと納得はするが、もらっただけではわからない。市民に対してもよく周知をしていただきたい。

広報とかのみでなく、市長さんや部長さんが市民のところに出向いた際に、1分でもいいから中野市はこんな状況で、こういう方針で行くということを絶えず広報していただきたい。ある日突然、この施設は利用者が少ないから廃止、閉鎖と言われれば、市民からブーイングが出るのは当たり前である。自分の担当以外の話もできるように身近なことからやっていただければ10年後には変わってくると思う。

学校の先生方にも、中野市はこういう方向でまちづくりをしているから、大学を卒業したら将来は中野市に帰ってきてほしい、帰ってくればバラ色のいい社会になっている、そういうことを絶えず話していけば人口も増える。

わかりやすい資料で周知いただき、子供たちに夢を語れるような施策をお願いしたい。

【議長】

それぞれ各委員より発言をしていただきました。他に(4)中野市公共施設管理運営方針(案)についてありますか。

なければ、「中野市公共施設管理運営方針(案)」について原案通り承認でよろしいでしょうか。

【各委員】

異議なし

【議長】

なお、今日、明日すぐに実行する案だけではございません、今後10年度を見据えた方針案ということですので、実際の施設の見直しにあたっては、現在の利用者のご意見

を伺う中で丁寧かつ慎重な対応をお願いして、市の方針案を認めるということで決定させていただきます。

ここで市長から発言をお願いします。

【市長】

たくさんの貴重なご意見、ありがとうございました。物事を考える時に一つ言えることは、何かをしようとすればそれが1つだけの効果を生み出すわけではなく、副次的ないろいろな影響、効果があると思います。先ほどの図書館の話にもありました、総合的なビジョンを示し戦略的に中野市をどうするのか、そのうえで検討すべきだというようなご意見を頂戴いたしました。

人口減少というのは中野市だけの問題ではなく、我が国の各自治体すべてが直面する問題です。私が考えている事ですが、消費的な投資ではなく、投資的な考えをもってこれから各施策を皆さんに説明していきたい、長期的にこういう形で着地点、目標を持ちたいということになろうかと思えます。

本日、市の方針案をお認めいただきましたけれども、これは方針です。中野市は平成23年から公共施設白書の作成にとりかかったということは、全国的にも先行して取り組んできたわけで、この先行して取り組んだ姿勢を殺さないように生かしていきたいと思っています。

今回委員となっていていただきました皆さんから個人的でも結構ですから、忌憚のないご意見を頂戴して、とにかくみんなで良い中野市を、人口が減らない中野市を創っていききたいと思っていますのでどうぞよろしくお願いします。

(2) その他

【委員】

市長が人口が減らない中野市と言いましたが、生活が安定し不安なく結婚し、子どもを産み、育てやすい施策を市として取り組むことで人口減少を食い止めることができると思いますのでよろしくお願いします。

【政策情報課長】

今後の委員会の予定ですが、次期行政改革大綱につきましては、事務レベルで作成している所でございますので、まとめ次第、委員の皆さんにご審議をお願いする予定であります。

5 閉 会（副会長）

15：20 終了